

演習事例の概要

事例タイトル	家庭の状況変化により、在宅生活から GH へ移行するケース
これまでの経過 要約	<p>特別支援学校卒業後、食品会社に就職したが、1 年が経過したころから他のパート社員との関係がうまくいかず、休みがちとなる。休みが続き、数ヶ月は自室から出ることができなくなり引きこもるが、障害者就業・生活支援センターとの相談を通じて、会社・本人・家族・相談支援事業所などと話し合い、「もう少しゆっくり仕事ができるところ」への意向が確認される。</p> <p>T 相談支援事業所が関わり始め、日中の場の検討を行い、見学・実習等を経て、市内の就労継続支援 B 型事業所「ワークセンター K 園」に通所となった。初めの半年は環境の変化への不安が強く、朝になると腹痛を訴えるなど、通所を拒む様子があり、母の付き添いで通所することが多かったものの、共通の趣味の話ができる友人ができたことを機に通所を拒むことはなくなり、単独で安定した通所ができるようになる。</p> <p>今は両親と一緒に暮らしているが、「僕は一人前になりたい」という発言が時折聞かれ、将来は自立した生活を望んでいる様子。</p>
年齢・性別・手帳・区分	<p>〔年齢〕26 才 〔性別〕男性</p> <p>〔療育手帳〕B 2 〔障害支援区分〕2</p>
家族構成・家族状況・現在の居住歴	<p>〔家族構成〕父・母・兄・本人</p> <p>〔家族状況〕父：やさしい父であり、小さい頃はよく色々なところに連れて行ってくれたが、数年前からは仕事が忙しく、関わりは少なくなっていた。</p> <p>平成 30 年 7 月に突然の脳梗塞で入院してしまい、現在入院中。</p> <p>母：本人のことを可愛がるあまり口うるさい。父のこともあり、本人の将来を心配している。近隣のスーパーでパート勤務。</p> <p>兄：結婚して県外で生活、昨年男の子が生まれる。</p>
生活歴・病歴	<p>〔生活歴〕</p> <p>神奈川県 F 市で出生、幼少期は特筆すべきこともなく過ごす。小学校、中学校と普通級に在籍していたが、勉強についていけず、また対人関係が苦手なこともあり（いじめられ一時学校に通えないこともあった）、中学校 3 年時、児童相談所に相談。軽度の知的障害があることがわかり、本人のペースに合った環境が望ましいとの助言を受け、中学校卒業後は特別支援学校高等部に進学する。学校ではいじめられることもなくなり、のびのびと学校生活を送ることができ、サッカークラブのキャプテンとしても活躍。本人も特別支援学校時代が一番楽しかったとの印象がある。</p> <p>性格は明るく優しい。お笑い芸人のまねをするなど楽しいことが好き。反面慣れない環境では緊張しやすくストレスを溜めやすい。</p> <p>〔病歴〕</p> <p>中学 3 年時、たびたび通学できず、学校の先生からの勧めもあり心療内科を受診</p>

	し、安定剤を服用するようになる。現在も月に 1 回通院しており、状態はほぼ安定している。
経済状況	〔障害年金〕 2 級・〔工賃〕 1 万円前後/月・〔貯金〕 約 400 万円
相談に至る経緯	<p>安定した生活が送れていたが、兄家族の出産や突然の父の入院が重なり、母の負担が増大。母はパート勤務のあと父の病院へ行き、帰宅後家事をこなす生活。</p> <p>父の退院も近いが今まで通りの生活が送れるかはわからず、今の生活の不安と「親亡きあと」の不安を強く感じるようになり、F 市役所障害福祉課や T 相談支援事業所に相談する。</p> <p>相談支援専門員からグループホーム「スマイル」を紹介される。</p>
本人が望んでいる暮らし	友達と楽しく過ごしたい、「一人前になりたい」と自立した生活を望んでいる様子。
本人の状況と最近の様子	<p>母が忙しいため、帰宅後は一人でゲームをして過ごしている。母不在の休日の昼食は「お母さんが帰ってくるまで待っててね!」と言ってあるが待ちきれず、カップラーメンを作って食べていることもある。外出はほとんどしないなど、運動する機会も減り、一人で過ごすことが多くなっている。</p> <p>平成 30 年 8 月、一人で外出するが夜遅くまで帰ってこないことがあり、母が心配し近所を探し回ることがあった。22 時ごろ一人で帰宅、「お父さんに会いたくなった。」「道に迷ってわからなくなっちゃった…」と言葉少なに状況を説明してくれた。</p>
その他 各担当者一覧	<p>平塚ヤマトさん（本人）</p> <p>グループホームスマイル サービス管理責任者：本研修受講者 世話人：小田原さん</p> <p>T 相談支援事業所 相談支援専門員：宮ヶ瀬氏</p> <p>ワークセンターK 園 サービス管理責任者：箱根氏</p>

アセスメント表

相談日時	平成 30 年 8 月 27 日 13:00～14:00
氏名等	平塚ヤマト（26 歳） 男 療育手帳 B2 障害支援区分 2
福祉サービスの利用等	食品会社(パート勤務)就業経験あり 市内 就労継続支援 B 型事業所 ワークセンター K 園 通所 T 相談支援事業所 月 1 回〇〇メンタルクリニックに通院
心身の状況	身長 165 cm 体重 75kg 最近体重増加傾向 月 1 回の通院をしている。服薬もきちんとしており精神状況はほぼ安定している。 薬は普段は母が管理しているが、母が忘れると「お薬は？」と指摘することがある。
精神面の状況	やさしい性格だが、自分の気持ちをうまく伝えられない。また嫌なことを我慢してしまうためストレスが溜まりやすい。ストレスを発散する手段として、母に対し、激しくはないが手を掴んだり、大きな声で「うるさい！」と言ひ、当たることがある。
生活の自立度	A D L は自立しているが、身だしなみを整えることに注意が向かないところがある他、朝が弱く、寝起きが悪いため、いつも母に起こしてもらっている。 公共交通機関を利用して単独で外出可能。初めての場所では練習が必要。 金銭管理は、月の小遣い管理程度。 コンビニでの買い物やファストフード店などの利用ができる。 電子レンジや電気ポットを使う簡単な調理は今までの生活の中で経験あり。
気持ちの自立度	「一人前になりたい」と自立への気持ちは強い反面、新しい環境は苦手で慣れるまでには時間がかかる。 母に依存し毎朝起してもらひ、また困ったことがあると常に母親に相談するが、なかなか言い出せずストレスを溜めることがある。
経済状況	障害年金 2 級、貯金 約 400 万円。 金銭管理は母が行っている(月の小遣いは本人が管理している)。
趣味	マンガとゲーム。マンガはワンピースが大好きで、最新刊が出るのを心待ちにしている。 以前は父と休日にマウンテンバイクで 1 時間ほどの海岸へサイクリングに出かけることが楽しみであったが、最近は機会がなく、バラエティ番組を楽しみとしている。
キーパーソン	母 : 将来の生活が父の入院で心配になり、グループホームへの入居を希望 「うちのヤマトは何にもできないから…」と本人のことを過小評価している様子 優しく温かい母であるが本人のことを大切に思うあまり、本人より先に発言してしまい母のペースとなりやすい。

<p>家 族</p>	<p>父：家族思いでやさしい父。本人との関係は良好であったが平成 30 年 7 月に倒れ、救急車で運ばれる。脳梗塞であった。ICU で一時は危険な状態であったが手術後の経過は良好。左半身に麻痺が残るようだといわれ退院に向けてリハビリを開始した様子。（母からの情報でこれ以上詳しい話は確認できていない）</p> <p>母：やさしいが心配性であり、ヤマトさんの身の回りのことについて何かと先回りして代わりにやってしまう傾向がある。また、本人への口出しが多く、父に注意されることもあるが、ヤマトさんの将来を心配している。</p> <p>兄：ヤマトさんが 24 才の時に結婚し県外に住んでいる。年に 2 回は実家に帰りヤマトさんのゲーム等の相手はしてくれる。ヤマトさんと兄嫁との関係は良好である。</p>
<p>本人の最近の状況</p>	<p>ワークセンターK 園は休むことなく通所できており、安定している。</p> <p>平成 30 年 8 月、休日に自宅から一時所在不明となることがあった。GH「スマイル」への入居が決まり、母は GH に迷惑をかけるのではないかと心配している。</p> <p>体重は増加傾向で母も気にしており、ワークセンターK 園でも座って行う「部品組み立て」の作業班から立ち仕事である「コンテナ詰め」の作業班へ変更を検討し作業実習を行う予定。</p>
<p>その他</p>	<p>F 市 人口約 40 万</p> <p>ワークセンターK 園 定員 40 名 機会部品組立班（座り仕事）・コンテナ詰め班（立ち仕事）・清掃班（屋外作業）などの日常の作業の他、月 1 回のサークル活動、不定期の外出行事など</p> <p>グループホーム スマイル 定員 5 名 （介護サービス包括型）通常夜間世話人 1 名</p> <p>自宅からワークセンターK 園は徒歩 20 分</p> <p>GH からワークセンターK 園は駅を挟んで徒歩 30 分程度</p>